



犬の

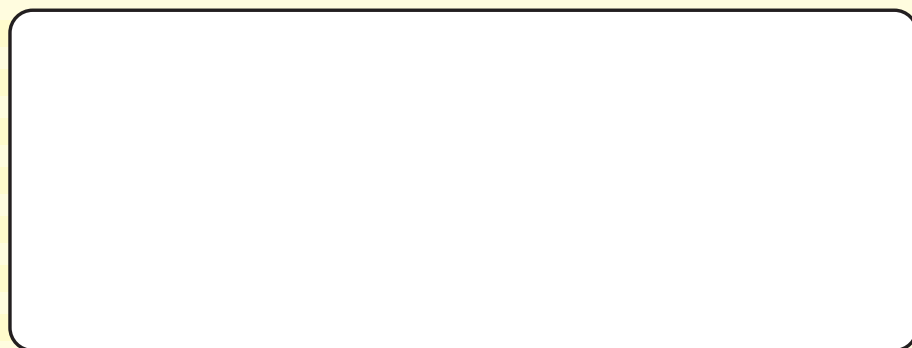


ワクチン抗体価検査

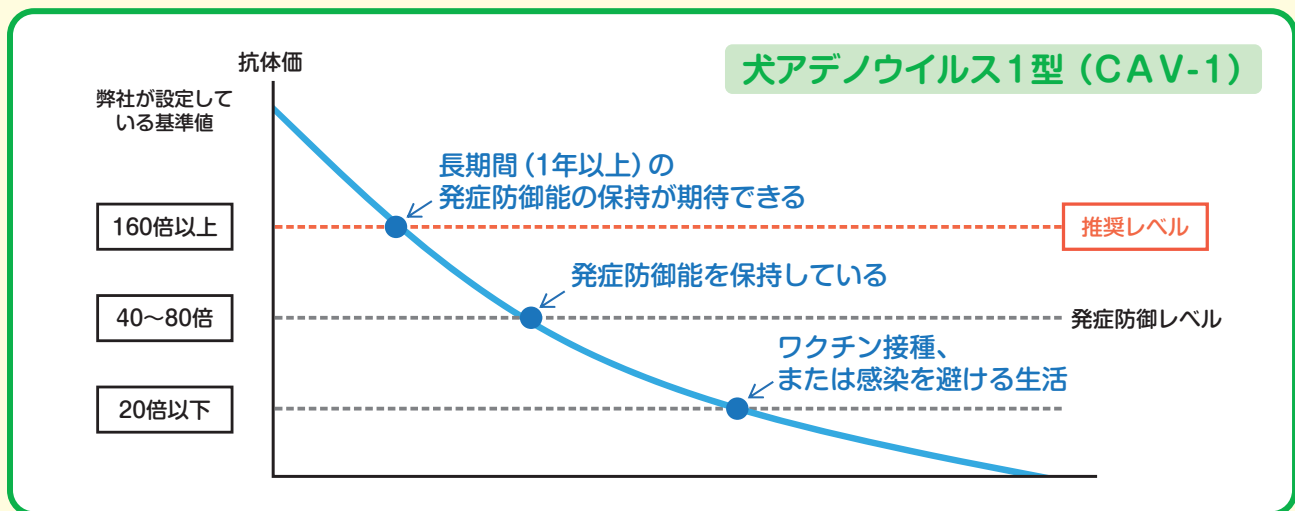
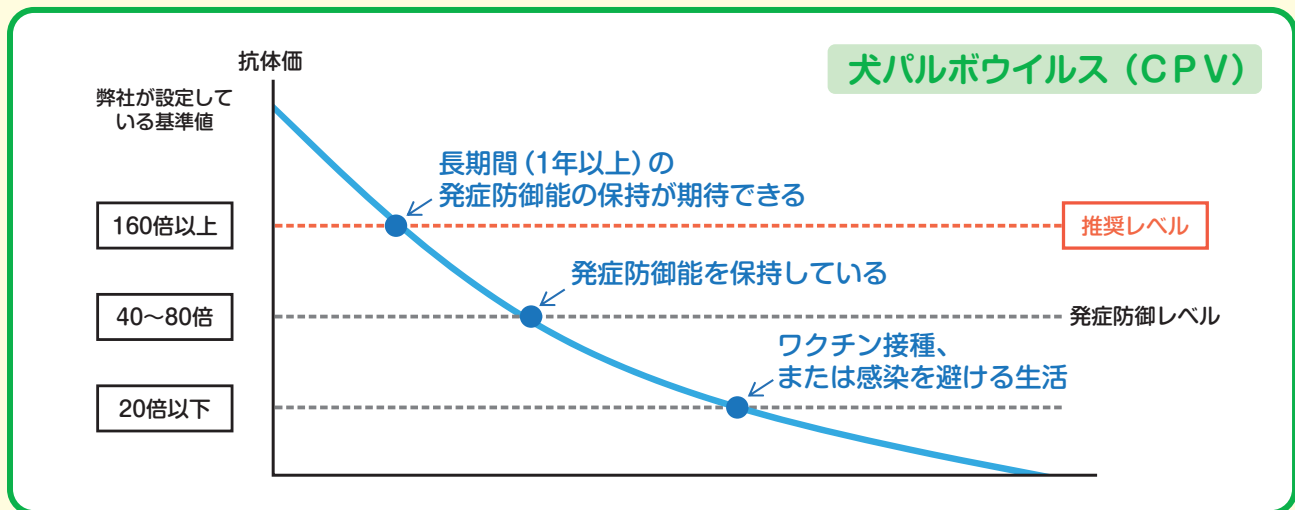
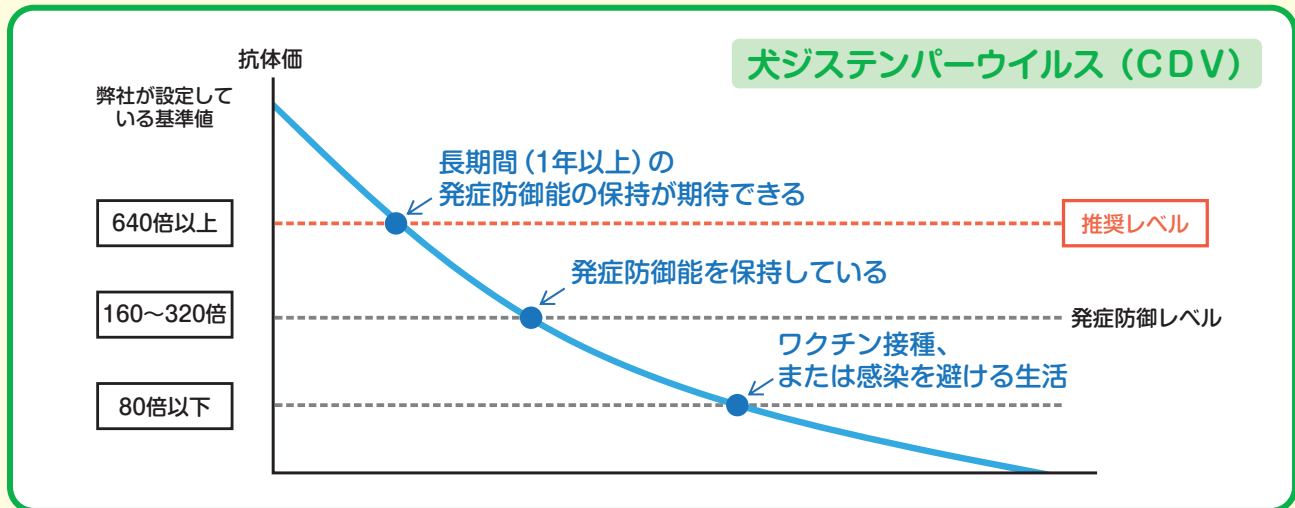
検査結果のご案内

様

ちゃん



検査報告書の各抗体価について



あなたのワンちゃんが持っている発症防御のための抗体価を具体的な数値で確認します。
これにより状況に応じた生活を心がけることができます。

抗体価が発症防御レベルに達していない場合は、ワクチン接種または感染を避ける生活を獣医師にご相談ください。



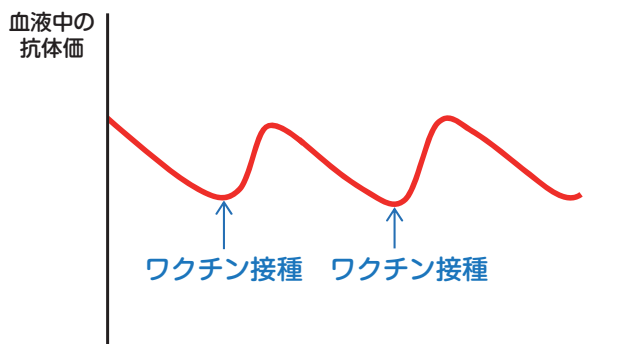
犬のワクチン抗体価検査について

狂犬病を除いた犬のコアワクチンが対象とする感染症には、犬ジステンパーウイルス感染症、犬パルボウイルス感染症、犬伝染性肝炎（犬アデノウイルス 1 型感染症）があります。なお、コアワクチンは犬アデノウイルス 2 型感染症についても効果があります。

上記 3 種の感染症では、血液中の抗体価と発症防御との間に相関性があることがわかっており、発症防御能を評価するための基準値も多数報告されています。

犬のワクチン抗体価検査とは、犬ジステンパーウイルス感染症、犬パルボウイルス感染症、犬伝染性肝炎（犬アデノウイルス 1 型感染症）に対する血液中の抗体価を測定し、各感染症に対する発症防御能を数値化して評価する検査です。なお、検査は少量の採血で測定可能です。

ワクチン接種の目的



左記グラフはワクチン接種による抗体価推移のモデル図です。

※長期にわたり抗体価が下がらない個体、ワクチンを接種しても発症防御レベルまで抗体価が上がらない個体、ワクチン接種後抗体価は上昇するがその後急激に下がってしまう個体も存在します。

ワクチン接種の目的は、免疫状態を保持することであり、その指標として抗体価検査があります。

ノンコアワクチンについて

ノンコアワクチンとはワンちゃんの地理的環境、生活様式など感染のリスクに応じて接種するワクチンのことです。

ノンコアワクチンが対象とする感染症には、犬パラインフルエンザウイルス感染症、犬コロナウイルス感染症、ボルデテラ感染症およびレプトスピラ感染症などがあります。

なお、犬パラインフルエンザウイルス、犬コロナウイルス、ボルデテラおよび犬アデノウイルス 2 型については、いずれの病原体も局所感染性であり、血液中の抗体価は必ずしも発症防御能を判断する指標にはなりません。このため、発症防御能を判断する有効な手段がありません。

また、レプトスピラは血中抗体価と発症防御能の相関性があると言われてはいますが、多数存在するレプトスピラの血清群毎に感度よく血中抗体価を測定する方法がなく、発症防御能を判断する基準値の報告もありません。

さらに、レプトスピラワクチンの免疫持続期間は1年またはそれ以下であるため、必要な犬に対しては基本的に毎年の接種が必要であることからワクチン抗体価検査の臨床的意義は少ないと思われれます。



動物たちと共に暮らす人々の想いに応える会社でありたい

当社は、『検査に込められた動物の健康を願う想いに最高の品質と最大限の誠意でお応えする』を企業理念とし、1993年の設立以来、動物専門の臨床検査会社として活動を続けております。病理・臨床検査などは、動物病院での診断や治療、予防医療には無くてはならないものであり、獣医師が疾病を特定し診療方針を決定するためにも必要不可欠となっております。

『健康でいて欲しい』その想いに少しでも応えていきたい。

診察、検査、診断、治療、投薬、アフターケアといったヘルスケアサイクルの中で、必要なモノやコトを提供していくことにより、動物たちと共に暮らす人々の幸せな時を支える会社でありつづけたい、これが当社の想いです。

高度な情報提供の為に、検査精度の向上や新たな検査項目の開発が常に求められています。当社はこれからも皆様の「想い」にお応えすべく、プロフェッショナルな検査会社として弛まぬ努力を続けてまいります。

株式会社エム・エル・ティー

弊社の飼主さま向けサイト「犬や猫のワクチン抗体価検査」はこちら⇒

